



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2014/07/15(火)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 150

「第 67 回 北海道高等学校バスケットボール選手権大会 (女子)」

北海道バスケットボール協会強化委員会
指導者育成委員会 永野 博子

札幌山の手高校 2 年連続 30 度目の優勝!!

旭川藤女子高校初の全国切符!

【2014/06/19/～22 : 北海道立北見体育センター他】

今大会は、2月に行われた全道新人大会のベスト4に残ったチームが山の手高校のみと、波乱の幕開けとなった北見の大会であった。

A ブロックは山の手が順当に勝ち進み、B ブロックは南商戦苦戦した東商が勝ち進み、C ブロックは帯広三条と北海に辛勝した函中部が最後まで接戦の末函中部がベスト4へ、D ブロックは激戦区で最終的に旭川藤と海星の戦いとなり大差で旭川藤がベスト4へののりをあげた。

以下決勝リーグの感想を一言

山の手は決勝リーグに進んできた相手を、3戦連続の100点越えで撃破し圧倒的な破壊力を見せつけた。立ち上りから高さ、スピードで相手を翻弄し一方的な展開に持ち込んだ。

準優勝で初の全国切符を手にした旭川藤は函中部に圧勝し東商戦に勝って全国の切符へとチームの結束力をはるかに東商を上回っていた。昨年は3位に終わり、今年は伊藤監督就任36年目と伺っておりますが、選手達の思いが初の全国切符を先生にプレゼントしたゲーム展開だった感が強い。特別長身選手が居るわけでもなし、玉田主将を中心に各ポジションの選手が上手に合わせのプレーを見せ、オフェンスリバンドでもチャンスをつくり確実に得点を重ねるゲーム展開が多かった。

3位の東商は、初戦でポイントゲッターの#6が足首を捻挫するというアクシデントに見舞われ、チームの雰囲気も重い中で決勝リーグ戦へ進んだが各試合共に元気がなく、連続全国への夢もはかなく消えた。

同じく、3位の函中部は50数年ぶりのベスト4へ進出した。オフェンスでは、カッティングやハイポストからバックドアプレーなど、ナンバープレーが随所に見られ最後まで笑顔でプレーする姿に会場には爽快さが残った試合が多かった。

ここ数年、山の手が圧倒的な強さを見せているが、同じ高校生です。

このチームに対抗できる学校が早く出てきてほしい気持ちが強く感じられた。

バスケットは高さも必要だがゲームメイクのガードの養成も必要不可欠だと思う。それと、1 on 1 のオフェンスとディフェンスにどれだけ時間をかけているか、最終的には体力・脚力の勝負になってくると思う。今大会も将来性のある選手が各チームおりました。今後いかに伸ばしていくかコーチの手腕に期待したい。

結果とベスト5は以下の通りです。

山の手	104	-	48	旭川藤	旭川藤	73	-	52	東商
山の手	110	-	35	東商	旭川藤	71	-	61	函中部
山の手	122	-	25	函中部	東商	76	-	59	函中部

優勝	札幌山の手高校	3勝	0敗
準優勝	旭川藤女子高校	2勝	1敗
3位	札幌東商業高校	1勝	2敗
3位	函館中部高校	0勝	3敗

以上の結果、札幌山の手と旭川藤は千葉県で行われる全国大会の切符を手にした。

(ベスト5)

斎藤	麻未	(山の手)	3年
佐藤	奈々美	(山の手)	3年
玉田	那奈	(旭川藤)	3年
佐々木	杏菜	(東商)	3年
加藤	梨菜	(函中部)	3年

受賞者のみなさんおめでとう。

最後に3日間の大会期間中、北見地区協会、各高校の先生方・生徒の皆さん、当番校の北見北斗高校さんには大変お世話になりました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。